

旅と人を描く

一五つの『五十三次』



とうかいどう ごじゅうさんつぎのうち にほんばしあさのけい
1 歌川広重『東海道五拾三次之内』より「日本橋朝之景」

江戸と京都とを結ぶ東海道は、東西の大都市をつなぐ交通の大動脈。現在では新幹線が通っていますが、その昔は徒歩や駕籠、馬に乗って行き交う人々で賑わう街道でした。

現在の東京都中央区にある日本橋を起点に、神奈川、静岡、愛知、三重、滋賀を経て京都の三条大橋まで、400kmを超える長い道中には53の宿駅（旅客の泊まる宿屋があり、人や荷物の運搬の中継点になる所）がありました。「五十三次」はこの53の宿駅をさす言葉です。

このコーナーでは、江戸末期から明治にかけて制作され、東海道を主題とする5つの連作をご紹介します。

浮世絵（木版画）、銅版画、石版画それぞれの版種の持ち味を感じていただくとともに、移り変わりゆく街道の風景や、人々の営みをお楽しみください。

☆ 作品保護のため、会期中展示替えを行います。

（前期）6/18(水)~7/20(日)、（中期）7/21(月・祝)~8/17(日)

（後期）8/19(火)~9/23(火・祝)

※表記の無いものは全期間展示します。

☆凡例：番号

作者（生没年）

作品タイトル

判型・サイズ、制作年

☆シリーズ作品は、共通する事項を最初にまとめ、シリーズ名は『』であらわしています。

☆大判錦絵は約390×260mm、間版錦絵は約330×230mmです。

浮世絵の「五十三次」

とうかいどう ごじゅうさんつぎのうち ほうえいどうばん
『東海道五拾三次之内』（通称『保永堂版東海道』）・『東海道五十三次之内』（通称『行書東海道』）・『双筆五十三次』は浮世絵（木版画）の連作です。

木版の得意とする繊細なぼかしや温かみのある色調、線描の柔らかさを楽しむことができます。

1 つめ

「東海道五十三次」と聞いて、まさきに思い浮かぶのは歌川広重（1797~1858）による浮世絵のシリーズ、いわゆる『保永堂版東海道』でしょう。天保4~7（1833~36）年頃制作されたこの作品は、起点の日本橋とその先に連なる53の宿場、終着地の京都三条大橋を描いた55枚揃です。

優しいまなざしで人と風景を見つめた風景版画の名作として、出版当初から現代に至るまで、見るものを惹きつけてやみません。

1~36

うたがわひろしげ
歌川広重（1798~1858）

とうかいどう ごじゅうさんつぎのうち ほうえいどう
『東海道五拾三次之内』（保永堂版東海道）

大判錦絵(木版多色)、天保4~7（1833~36）年頃

- | | | | |
|---|--------------|------------------|------|
| 1 | にほんばし
日本橋 | あさのけい
朝之景 | （前期） |
| 2 | しながわ
品川 | ひの
日之出 | （後期） |
| 3 | かわさき
川崎 | ろくごうたしづね
六郷渡舟 | （中期） |



日本橋

品川

東京

川崎

神奈川

保土ヶ谷

戸塚

藤沢

平塚

大磯

小田原

箱根

三島

静岡

沼津

原

東海道五十三次 宿場

4	かながわ 神奈川	だいのけい 臺之景	(前期)
5	とつか 戸塚	もとまちわかれみち 元町別道	(後期)
6	ひらつか 平塚	なわてみち 縄手道	(前期)
7	おおいそ 大磯	とらあめ 虎ヶ雨	(前期)
8	はこね 箱根	こすい 湖水図	(前期)
9	みしま 三島	あさぎり 朝霧	(中期)
10	ぬまつ 沼津	たそがれ 黄昏図	(後期)
11	はら 原	あさのふじ 朝之富士	(前期)
12	よしわら 吉原	ひだりふじ 左富士	(中期)
13	かんばら 蒲原	よるのゆき 夜之雪	(後期)
14	ゆい 由井	さつたれい 薩埵嶺	(前期)
15	えじり 江尻	みほえんぼう 三保遠望	(中期)
16	ふちゅう 府中	あべかわ 安倍川	(中期)
17	まりこ 丸子	名物茶店	(中期)
18	おかへ 岡部	うつのやま 宇津之山	(後期)
19	ふじえだ 藤枝	じんばつぎたて 人馬継立	(前期)
20	かけがわ 掛川	秋葉山遠望	(中期)
21	ふくろい 袋井	でぢや 出茶屋ノ図	(後期)
22	はまつ 濱松	ふゆがれ 冬枯ノ図	(中期)
23	よしだ 吉田	とよかわばし 豊川橋	(前期)
24	ごゆ 御油	とめおんな 旅人留女	(中期)
25	あかさか 赤坂	りよしやしやうふ 旅舎招婦ノ図	(後期)
26	ふじかわ 藤川	ぼうばな 棒鼻ノ図	(中期)
27	ちりゅう 池鯉鮒	しゅかうまいち 首夏馬市	(後期)
28	なるみ 鳴海	ありまつしほり 名物有松絞	(前期)
29	みや 宮	あつたしんじ 熱田神事	(中期)
30	よっかいち 四日市	みえがわ 三重川	(後期)
31	いしやくし 石薬師	石薬師寺	(前期)
32	しょうの 庄野	はくう 白雨	(中期)
33	かめやま 亀山	ゆきばれ 雪晴	(後期)
34	はき 関	ほんしんはやだち 本陣早立	(前期)
35	つちやま 土山	はるのあめ 春之雨	(後期)
36	けいし 京師	さんじやうおはし 三條大橋	(後期)

2つめ

保永堂版のヒットで大きな成功を収めた広重は、他にも五十三次のシリーズを多く手がけていますが、その一つが展示作品の『行書東海道』です。題字が行書体で書かれており、天保12～13（1841～42）年頃に出版されました。淡い色使いと簡潔なタッチで、保永堂版に比べほのぼのとした味わいです。

37～72

歌川広重

『東海道五十三次之内』（行書東海道）

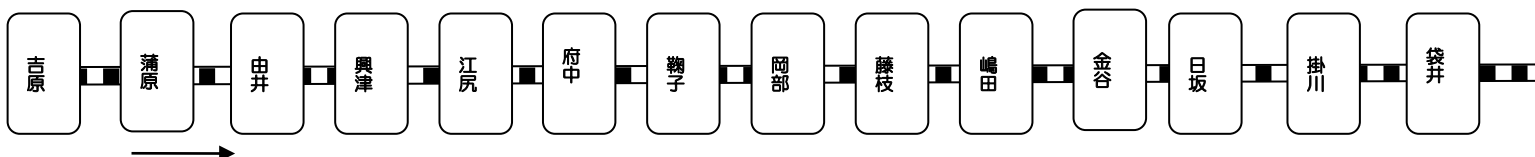
間判錦絵（木版多色）、天保12～13（1841～42）年頃

37	にほんばし 日本橋	あけぼのたびだち 曙旅立の図	(前期)
38	しながわ 品川	さめずあさのけい 鯨洲朝之景	(後期)
39	かわさき 川崎	ろくごうわたふね 六郷の渡し舟	(中期)
40	かながわ 加奈川	せんげんした 浅間下より台を見る図	(前期)
41	とつか 戸塚	おうさか 逢坂より宿を見る図	(後期)
42	ひらつか 平塚	ばにゅうがわふなわた 馬入川舟渡しの図	(前期)
43	おおいそ 大磯		(前期)
44	はこね 箱根		(前期)
45	みしま 三嶋		(中期)
46	ぬまつ 沼津	名物鯉節を製す	(後期)
47	はら 原	かしわばらたてば 柏原立場ふじの沼	(前期)
48	よしわら 吉原		(中期)
49	かんばら 蒲原	いわぶち 岩渕よりふじ川を見る図	(後期)
50	ゆい 由井	かち渡りゆひ川の図	(前期)
51	えじり 江尻	しみずのみなとえんぼう 清水之湊遠望	(中期)
52	ふちゅう 府中	あへ川遠望	(中期)
53	まりこ 鞠子		(中期)



53「鞠子」

54	おかへ 岡部	うつのやまのづ 宇津の山之図	(後期)
55	ふじえだ 藤枝	せとがわかちわたし 瀬戸川歩行渡	(前期)
56	かけがわ 掛川	あきはみち 秋葉道追分ノ図	(中期)
57	ふくろい 袋井		(後期)
58	はまつ 濱松	ざんざの松	(中期)
59	よしだ 吉田	とよかわよしだばし 豊川吉田橋	(前期)
60	ごゆ 御油		(中期)
61	あかさか 赤坂		(後期)



62	ふじかわ 藤川	山中宿商家	(中期)
63	ちりゅう 池鯉鮒		(後期)
64	なるみ 鳴海	めいぶつありまつしほ 名物有松紋り店	(前期)
65	みや 宮	あつたはまのとりい 熱田濱之鳥居	(中期)
66	よっかいち 四日市	さんぐうどうおひわけのず 参宮道追分之図	(後期)
67	いしやくし 石薬師		(前期)
68	しょうの 庄野	じんぼやどづきのず 人馬宿継之図	(中期)
69	かめやま 亀山		(後期)
70	せき 関	はたごやみせのず 旅籠屋見世之図	(前期)
71	つちやま 土山	すゝか山雨中の図	(後期)
72	きょう 京	さんじょうおおはしのず 三条大橋之図	(後期)



3 つめ

『双筆五十三次』は風景版画の名手として名高い歌川広重と、人物画の名手三代歌川豊国（初代国貞、1786～1864）の豪華なコラボレーションによる作品です。

背景のコマ絵を広重、手前の人物を三代豊国が描いています。

73～90

歌川広重・三代歌川豊国（国貞：1786～1864）

『双筆五十三次』

大判錦絵、安政元～4（1854～57）年

73	にほんばし 日本橋	(中期)
74	しながわ 品川	(後期)
75	ふじさわ 藤澤	(前期)
76	ぬまつ 沼津	(中期)
77	はら はら	(後期)
78	よしわら 吉原	(前期)
79	おきつ 奥津	(中期)
80	えじり 江戸	(中期)
81	ふくろい 袋井	(前期)
82	みつけ 見附	(後期)
83	はままつ 濱松	(前期)
84	ふたがわ 二川	(後期)
85	あかさか 赤坂	(前期)
86	なるみ 鳴海	(中期)
87	くわな 桑名	(後期)
88	よっかいち 四日市	(前期)
89	しょうの 庄野	(後期)

90 せき 関 (中期)

銅版画の「五十三次」



4 つめ

幕末に活動した洋風画家、安田雷洲（1770?～1859）が制作した『東海道五十三驛』は、各宿場の様子を細密に描きこんだ銅版画のシリーズです。小さな画面を4つずつ連ねた4コマ漫画のような構成で、14枚セット、56図からなっています。また多くの図で「Niffonvasi（江戸日本橋）」のように日本語で記された地名の横に、ローマ字綴りが添えられています。

現在知られている雷洲の作品は、肉筆・銅版画ともに遠近法や明暗を強く意識した洋風画が大半です。しかし『東海道五十三驛』の構図やモチーフには先行する浮世絵版画の影響もみられるでしょう。

雷洲の画歴は不明な点が多いのですが、はじめ葛飾北斎に画を学んだといわれ、版本の挿絵や浮世絵風の美人画も制作しています。



93「みつけてんりう川・はままつ・まひさかいまきれ・あらみ」（部分図）

91～96

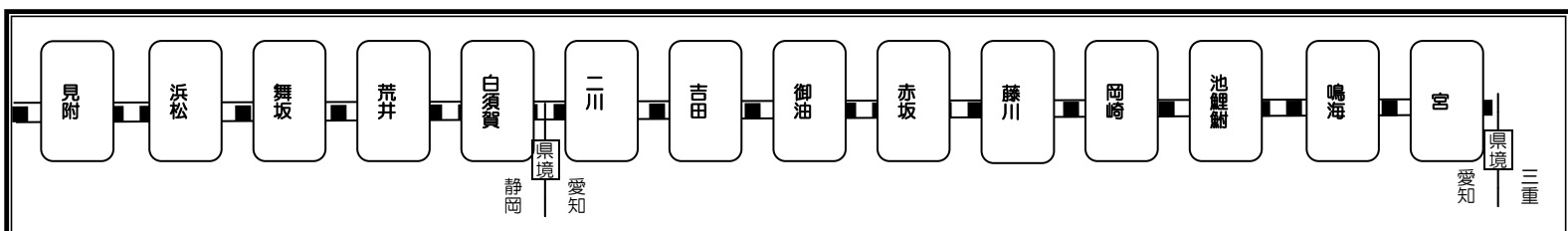
やすだらいしゅう
安田雷洲（1770?～1859）

『東海道五十三驛』

銅版（エッチング）

（縦）160～172.5×（横）94～98mm

弘化元（1844）年頃



- 91 江戸日本橋・品川海中ヨリ品川宿ヲ見之景・
自六郷渡至川崎宿景・神奈川宿
- 92 するがのくにぬまづ・するがのくにはら・するがの
くによ志ハラ ひとりにふしを見る景・するがのく
にふじ川わたしよりかんハラ宿にいたるの景
- 93 みつけてんりう川・はままつ・まひさかいまきれ・
あらゐ
- 94 あかさか・ふじ川・おかさきやはぎはし・ちりう
- 95 なるみ・みや・くわな・四日市
- 96 草津・大津・京都三條橋・祇園新島原

- 103 二川驛 岩谷観音
- 104 金谷驛 おおいがわはしばんしょ
大井川橋番所
- 105 島田驛
- 106 岡部驛 すいどうよりおかへをのぞむ
自隧道望岡部
- 107 静岡驛 せんげんさんふじをのぞむ
浅間山不二望
- 108 吉原驛 ぎょうむふじさんをのぞむ
暁霧望富士山
- 109 三島驛
- 110 大磯驛 かいひんせいけい
海濱晴景

石版画の「五十三次」



5 つめ

『懐古東海道五十三驛眞景』は、夭折の画家亀井竹二郎
(1857 頃～79) が実際に東海道に赴き写生して描いた油彩
画を原画とし、彼の死後に石版画にして出版したものです。

写生旅行の際、竹二郎は京都から出発し、東海道を西から東
へ進んで東京へと向かったため、各図の順番が他の東海道シリ
ーズと逆になっています。

竹二郎は夜の景色を描くことが得意であったといわれます。
本作でも夕暮れやトンネルの中、夜の街道沿いなどをモチーフ
にとり、光の変化や大気の質感を敏感に捉えています。

明治維新の後、次第にさびれつつあった街道沿いの風物を、
石版画独特の質感を活かしてノスタルジックに表現した作品
です。

97～110

亀井竹二郎 (1857 頃～79)

『懐古東海道五十三驛眞景』

石版 (リトグラフ)、199×266mm

明治 24～25 (1891～92) 年

- 97 水口驛 舊城内
- 98 土山驛 松ノ尾川
- 99 莊野驛 日本武尊御陵
- 100 四日市驛 燈明臺
- 101 岡崎驛 矢矧橋
- 102 赤阪驛



110「大磯驛 海濱晴景」

畦地梅太郎 (1902-99) コーナー

- 1 電車道
1928 年頃 130×190mm 鉛凸版
- 2 『一木集』第Ⅲ集より
赤い表紙
1947 年 196×114mm 木版多色
- 3 クロユリ
1953 年 353×258mm 木版多色
- 4 季節の山 (二)
1968 年 499×379mm 木版多色

2014 年 6 月 17 日発行

町田市立国際版画美術館

<http://hanga-museum.jp/>

この冊子は 3000 部作成し、1 部あたりの単価は 11 円です。

(職員人件費を含みます。)

